

～「銀河を“歩く”街」 にこにこ星ふちのべ ムーンウォーク事業 ～

宇宙にいちばん近い街で、ムーンウォーク世界大会を開催。海外からの参加者も加わり、商店街の夏の名物イベントとして定着。地域の資源を有効に活用した積極的な事業展開で、幅広い年代層を街に呼び込む原動力となっている。

所在地：神奈川県相模原市中央区淵野辺
3-7-20

TEL・FAX：042-755-2525

URL：<http://2525hoshi.jimdo.com/>

組合員数：83名

商店街の類型：地域型商店街

商店街の概要と事業を実施した背景

“宇宙にいちばん近い街”をキャッチフレーズとする商店街。小惑星探査機はやぶさで知られるJAXA(宇宙航空研究開発機構)相模原キャンパスの最寄駅であるJR淵野辺駅に隣接しており、宇宙に因んだオリジナルメニュー・商品の開発とネーミングや、通りの名称にも星座を使うなど宇宙に関連した街づくりを進めてきた。一方、中心市街地の空洞化等が全国的な課題となっているが、相模原市も例外ではなく、面積が広い割には核となる商店街が少ないなど個々の店の努力にもかかわらず、魅力を十分発揮しきれていないこと等が課題であった。



実施した事業の概要

①ムーンウォーク世界大会の開催

JAXAの玄関口であるという商店街の特色を活かし、『宇宙』をイメージできるダンス“ムーン・ウォーク”を取り入れ、いまだどこでも実施されていない「ムーン・ウォーク世界大会」としてコンテストを開催。商店街の話題性を創出し、来街者の増加を図った。

第1回の大会を平成25年8月3日に開催、その後継続して開催されており地域の名物行事となっている。

大会のルールは“宇宙が連想されればなんでもOK”というもので、コントあり、お笑いあり、まじめダンスありと様々で、参加者も3歳から78歳までと幅広い年代層の人達100組180名が参加。近隣の人々だけでなく、お笑いタレントや、モンゴルやオーストラリアなどの外国からの参加者もあり、国際色豊かで盛大な催しとなった。

活用した広報手段は、チラシやポスターの配布を行ったほか、地域情報紙への掲載、FM放送での呼びかけ、商店街アーケードにバナナをつけるなど多くの人々の注目を浴びるように心がけた。

②地域情報を網羅した新・商店街マップの作成

地元にある桜美林大学を中心とした学生ボランティアと連携し、若者や女性の視点での商店街のセールスポイント等をアピールする

内容を掲載した。地域住民や企業、淵野辺駅の乗降客、さらには近隣の青山学院大学、麻布大学等に通う学生にも配布し、大型店にはない商店街の魅力をPRした。SNSを通じて掲載商品を紹介してくれた学生もあり、発行部数8,000部以上の効果があった。



成果と成功の要因



今回初めて取組んだムーンウォーク世界大会については、事業終了後も取材の申し込みがあるなど反響は非常に大きく、商店街の存在を十分PRできた。また、学生の協力を得て作成した商店街マップも有効に使用され、SNS等を通じて情報発信がされるなどの副次的効果もみられた。さらに、商店街活動の必要性について認識が進み、新たに9名の組合員が加入するなど、組織強化につながった。事業を成功させた大きな要因として、一つには商店街の若手や後継者が率先して事業活動に

取り組んだこと、二つ目にはJAXAという貴重な“資源”を有効に活用したこと、三つ目には従来から積極的に情報発信を行ってきた成果が実ったものと考えている。

今後の取り組み

本事業後もムーンウォークは毎年継続開催しており、平成27年の第3回大会では、小学2年生が見事なダンスを披露して優勝した。平成26年12月の「はやぶさ2」の打ち上げの際は、駅前パブリックビューイングを開催。地域住民とともに打ち上げ成功を祝った。この模様をタイトルバックにして、地元のシンガーによる「Happy Happy」の曲に乗せ、商店街の若手や大学生、子供たちが楽しく踊るプロモーションビデオを制作、ネットで配信した。平成27年6月には「マップ付冊子」の改訂版として、組合員店舗が扱う「宇宙を連想させるメニューや商品」を載せた「宇宙グルメ・グッズマップ」を発行。その後JAXA相模原キャンパスが地方移転の対象に上げられたため、平成27年12月からは存続を希望する署名運動等を始めている。